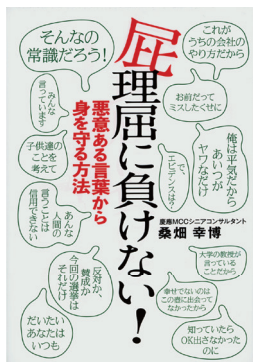


慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

矛盾や誤りを見抜き
生産的な議論に導く

『屁理屈に負けない！
—悪意ある言葉から身を守る方法—』

桑畑幸博（慶應芸術事業会）著
扶桑社／1400円（2020年5月）



パワハラやモラハラ、ヘイトスピーチ、さらに今年の新型コロナウイルス感染拡大に伴うメディアやSNSを通して飛び交ったデマ情報……。本書は悪意を含む言葉＝屁理屈から身を守る極めて実践的な指南書だ。「演繹法」「帰納法」という論理的思考の基本から説き起こし、論点をすり替える「ご飯論法」「わら人形論法」、反論しにくい空気を作る「同情論証」「権威論証」、さらに巧妙な「含みのある言葉」「後件肯定の虚偽」「前件否定の虚偽」など屁理屈の構造をわかりやすく解説。そして、ある時はしっかりと反論し、またある時はスルーしながら生産的な議論に導くためのヒントが数多く紹介されている。

教職員執筆の最新刊

●藤山宏（名誉教授）著

『カール・シュミット・ナチスと例外状況の政治学』
中公新書／860円（2020年6月）

●玉田康成（経済学部教授）ほか著

『情報とインセンティブの経済学』
有斐閣／2200円（2020年7月）

●森戸英幸（法務研究科教授）ほか著

『労働法トークライブ』
有斐閣／2200円（2020年7月）

●蟹江憲史（政策・メディア研究科教授）著

『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書／920円（2020年8月）

●大屋雄裕（法学部教授）ほか編著

『AIと社会と法—パラダイムシフトは起きるか？』
有斐閣／3400円（2020年8月）

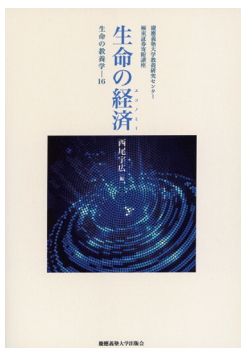
●津谷典子（名誉教授）ほか編著

『人口変動と家族の実証分析』
慶應義塾大学出版会／4200円（2020年9月）

慶應義塾この一冊

『生命の経済—生命の教養学16』

西尾宇広（商学部准教授）編
慶應義塾大学出版会／
2400円（2020年6月）



本書は日吉キャンパスの学生のために開設した極東証券寄附講座「生命の教養学」に基づく講義録の最新刊（2019年度分）。各分野の専門家がそれぞれの視点から「生命」と「経済」の関係性にアプローチ。実に多様な視点から生命と組織が織りなす生と死のダイナミズムを捉え直している。コロナ禍の最中、「生命」と「経済」はしばしば対立概念として取り上げられがちだったが、しかし、その関係性は決して単純なものではなく、人類が築き上げてきた文明の本質に根ざすものであることがひしひしと伝わってくる一冊である。